あったかいがいいね

シャローム横浜通信　８月号

２０２１年（令和３年）　８月号（第 252 号）

「共に考える」

梅雨の長雨が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

新型コロナ感染症も感染者数がいまだに増加しており、７月12日より東京都において緊急事態宣言が発令されるなど、第５波の到来と言われる状況が続いています。そのような状況の中で東京オリンピックが７月23日～８月８日、パラリンピックが８月24日～９月５日まで開催されますが、感染が広がらず、選手の活躍を通じて、世界中の人々に希望を与える大会になることを願っています。

先日、中学２年生と高校２年生を対象にしたヤングケアラー実態調査結果の記事に目が留まりました。厚生労働省と文部科学省が行った実態調査で中学２年生の5.7％、高校２年生の4.1％が何らかの形で家族の世話をしているという結果が出ており、中学２年生の17人に１人がヤングケアラーであることが示されました。そのうちの45～47％がほぼ毎日平均４時間近く世話をしているというのです。

ヤングケアラーとは、通学や仕事のかたわら、障害や病気のある親や祖父母、年下のきょうだいなどの介護や世話をしている18歳未満の子どものことを指します。急激な少子高齢化や親の働き方の多様化等により、家族の世話を「家の手伝い」として子供が担っているため、それが当たり前という認識になってしまいやすく、子ども自身が担う事ではないことに気づきにくいことと、相談先もあまりないのが現状です。そのため学業に遅れが出たり、進学や就職を諦めたり、社会的に孤立するなど、子供の将来に深刻な影響を与えているのです。

シャローム横浜は要介護の高齢者が入所する施設ですが、その背景には様々な問題を抱えている方々が大勢います。シャローム横浜を社会資源としてご利用していただきながらご家族の訴えに耳を傾け、「共に考える」機会を持つことで、ご家族全体へのサポートにつながればと心より願っています。

施設長　髙原　信夫

ひまわりの七夕

７月を迎え、通所部門でも夏に向けての活動を開始しました。その手始めが「七夕」です。来所の間に皆様とお話をさせていただきながら、それぞれの短冊を作り、飾らせていただきました。中には職員の願い事も…。七夕の次は、納涼祭に向けて居室の飾りつけを利用者様と一緒に行っていく予定です。

認知症対応型デイサービス　ひまわり　宍道美知子

第２５２号
令和３年７月１５日発行
（毎月１回　１５日発行）

責任者：施設長　髙原信夫
〒２４１－０８０２
横浜市旭区上川井町
１９８８
アドベンチスト福祉会
シャローム横浜

編集委員
遠藤・加藤・溝口
☎０４５-９２２-７３３３
https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/

あったかいがいいね

音楽療法

法人内での新たな試みの一つ、ひかりが丘地域ケアプラザ・デイサービスとの【**オンライン音楽療法**】を紹介します。コロナ感染症の拡大を受けて今年１月から始まりました。画面越しで行う合奏はどうしてもタイムラグが生じ、初めは戸惑いもありました。今はちょっとしたズレもオンラインならではの面白みとして定着しています。　　西 愛里

７月４日栄養課主催

かまどで茹でた
とうもろこしと枝豆を
提供しました。

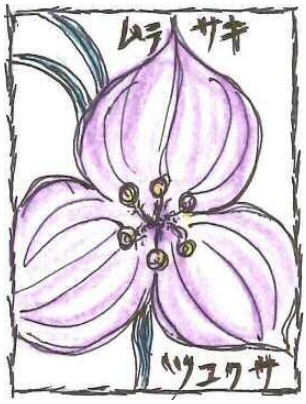
あいにくの雨でしたが、楽しい時間を過ごす事が出来ました。

栄養課　小寺秀偉

mini 紹介
裁縫ボランティア

毎週月曜日は裁縫ボランティアさんが入所されている方の繕い物やサイズ直し、名前付けなどをしてくださっています。

人にへつらうのではなく真心をこめて

第 160 回　チャプレン　上前 至

シャローム横浜では多くのボランティアの方々によって多種の活動が成されている。
レクリエーションでは紙芝居、囲碁、腹話術、クラブ活動ではガーデニング、書道クラブ、そのほか歌の指導、琴演奏、尺八、又、手助けとしての裁縫や、リネン交換、ドライヤーかけ等、その種類は、あげれば数え切れないくらい多種多様である。その活動は個人もあれば団体もある。約 150 名位の方々が関わって下さっている。なんと感謝なことであろうか。言葉では言い尽くせない位である。それが、昨年よりコロナ禍の影響が私共の施設にも襲い掛かりボランティア活動が全面的といっていいぐらい中止せざるをえなくなってしまった。以来、一年以上の中止が続いているが、ここで職員より、「又、来てもらうことはできないのだろうか」との声があり、その後の様子も伺いつつボランティアの皆様にアンケートをお出しした次第である。その結果半数の方より返事があり、高齢による体力低下の７名の方々を除いて全員、再開あればまた、喜んで参加したいとの返事があった。それもコロナ感染への対策が充分に築かれれば年内でも再開は可能という事であった。「利用者の方々と早く会える日を望んでいる」という。感謝にたえないことである。パウロは言う。「僕たる者よ、･･･人にへつらおうとして目先だけの勤めをするのではなく、真心をこめて･･･主に対してするように心から働きなさい」（コロサイ３章22、23 節）。
これこそボランティアの精神に通ずるものである。シャローム横浜にはこのような精神をもった多くのボランティアが与えられていることを感謝したい。